

須留田八幡宮 獅子舞が復活!



100年以上前：須留田八幡宮には獅子舞があったと語る
古老の話に、途絶えていた獅子舞を復活させようと若者たちが立ち上がりました。

獅子舞の復活

その昔、赤岡町須留田地区にある須留田八幡宮では、古くから地芝居が行われており、天保の改革で禁止された地方芝居を奉納芝居という名目で興行していました。当時、土佐藩家老桐間家のお抱え絵師の地位を追われ赤岡に住んでいた絵師金蔵は、この奉納芝居を熱心に見て、その中から彼独自の芝居絵を描くことになったと伝えられています。

平成9年、須留田八幡宮は氏子

や神社関係者、さらに地元篤志家の多大な浄財(寄付)によりお宮の全面的増改築を行い、それを契機に獅子舞復活の声ががりました。

獅子舞の奉納は戦後にも行われていましたが、地区外から人を雇っての奉納でした。地元の方で奉納が行われたのは、平成15年11月3日に開催された秋の大祭から。100年前に途絶えていた獅子舞を若者らの手で見事に披露することができました。

若者の男

獅子舞の演技は、以前香我美町の若一王子宮で獅子舞を演じていた横田貞雄さんや竹村圓さん



平成19年
獅子舞連のメンバーも5年目を迎えました。

昭和20年代後半
獅子舞を雇っていたころの集合写真

が指導にあたりました。最初の年は一から大変でしたが、熱心な指導とそれを受けての若者の熱意で踊りを復活させることができました。

基本的な獅子舞の動きに赤岡らしさを取り入れるのが、須留田流。若者のリーダーを務める久武大高さんは、最初は何もかも初めてでしたが、仲間ができること、その中で一緒にお酒を酌み交わすことが最高に楽しいと話されます。

「ずっと続けていくためにも、多くの若い人に参加してもらいたい」と一緒に演じる仲間を募集しています。

子ども遊び場に

「最近の子どもはお宮に来なくなった」と総代会長の澤弘一さんは祭りの準備をしながら話されました。

「このお宮は昔からの産土神土地の守り神(であり、子どもころは自分もこの鎮守の森で遊んだ。今の子どもたちにも、そんな思い出をつくってもらいたい」と子どもとお宮を結びつける活動を行っています。そのなかの一つとして、今年も御神幸には、子どももみこし」が一緒に加わっています。今後は、「子ども獅子舞」など、子どもや地域と交流を図っていきたいと考えているそうです。

5年目を迎えて

今年、復活から5年目を迎える獅子舞。立山神社の獅子舞を見て勉強してきた」という熱心なメンバーも。絵金蔵のイベントや保育所、市場など、神祭以外の行事でも引っぱりだこです。

今年の11月3日(土)に行われた秋の大祭では新しいメンバーを加え、練習の成果を発揮し、評判を高めました。

受け継ぎたい祭り

御神幸では、子どもたちがおみこしを担ぐ若者と一緒に「子どもみこし」を引き、「わっしょい、わっしょい」と大きな掛け声で赤岡のまちを練り歩きました。

地域の伝統行事は次の世代へ引き継ぐ大切な財産です。

地域特有の祭りが少しずつ形を変え、時代の変化と共に私たちの生活が変わった今も、自然への感謝や願いの気持ちは人から人へと受け継がれていきます。

鎮守の森にのぼりがはためき子どもたちの声や、太鼓の音が聞こえる。そんなどこにでもあった風景を取り戻し、守っていくことがこれからは必要になるとの声もあります。便利で豊かになっていく生活の中で、今、心の豊かさや人とのつながりを改めて見直すべきかもれません。